

令和5年度 県立土浦第一高等学校自己評価表

目指す学校像	項目	詳細		
	生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを理解し、人格形成を図り、自主的に多方面の知識と体験に触れ、物事について構造的に考え表現できる総合的な成長を目指す。 ・自己肯定感を持って主体的に行動し、思いやりを持って協働し、多様性を認め国際的視野を持てるような成長を目指す。 		
	教員	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら仕事の効率化を図り、余裕を持ち職場や仕事の内容における改善を行うことで、WLBの向上を目指す。 ・常にリスキングを行うことで、自身の成長から自己肯定感を強めて、その知識の生徒への還元も目指す。 		
	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・日本一で、国内教育のロールモデルとなるような学校を目指す。 ・整理整頓ができて、生徒が明るく学べる場所、楽しく、安心して、やるべきことに集中できる場所を目指す。 		
	連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、同窓生、地域、国内外の教育機関などとの連携を強化し、より良いより強い教育基盤の構築を目指す。 		
三つの方針		具体的目標		
三つの方針 (スクールポリシー)	入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・志及び好奇心があって、何事にも興味関心を持ち、自ら考え、行動できる生徒。 ・自己管理、時間の管理、健康管理について常に意識する生徒。 ・自己の適性について考えることができ、その能力を存分に生かしたいと考える生徒。 		
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫を生かした質の高い授業及び考査を実施し、主体的な学習態度を育成する。 ・部活動や学校行事を推進し、自主、協働、厚意の精神を育成する。 ・主体的に行動しながらも、協働の価値を理解し、多様な意見を受け入れ、協働する精神を育成する。 ・自己管理、時間の管理、健康・食事・睡眠の管理について定期的に啓発し、常に高い意識を持って生活できるように支援する。 ・キャリア教育、探究教育、多言語教育、グローバル教育などを含めた総合的教育のさらなる深化を図る。 		
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・自らを分析・理解し、妥協のない進路が選択できること。 ・人格形成を通じて、自己肯定感を持ち、あらゆる場面でスマートに対応できること。 ・本校を卒業して広い世界に出た時に自分に自信を持てるようにすること。 ・土ーネットワークを最大限に活用し、様々なことに挑戦できること。 		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
本校伝統の教科指導や学年体制、学校行事・部活動の運営等により、新型コロナウイルス感染症対策の最中であっても学校の特色を示		①高い志(=信念・厚意)の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 高い「志」を持ち、常に前向きに努力し続けることにより、自分の進路を自ら切り拓いていく態度を育成する。 ② 生徒の自己理解を促し、高い目標設定と絶え間ない努力ができるよう、個別面談の充実を図る。 	A

別紙様式2 (高)

<p>すことができた。</p> <p>今年度は、昨年度十分できなかつた行事等を感染症対策に注意しながら実施し、本校の良き伝統・校風を次の世代に引き継いでいきたい。</p>		<p>③ 将来において、各界でのリーダーを目指すべく、個人の可能性を伸ばせるように支援する。</p> <p>④ 学びのプロセスを記述するキャリアパスポートの活用、キャリア教育、進路支援などを通じて生徒が自ら進路を拓けること。</p>	
<p>また、ICT機器の活用を推進し、情報伝達ツールとしての活用の他、生徒の学習理解のサポートとなる体制作りを強化したい。</p>	<p>② 自己理解による主体的学習態度の育成</p>	<p>⑤ 授業に対する意欲と理解を高め、自主的・積極的な学習態度を育成する。</p> <p>⑥ しっかりしたタイムマネジメントと主体的に学ぶ姿勢を育て、効果的な学習活動を支援する。</p>	<p>A</p>
<p>OBOGのネットワークを活用した取り組みは、本校の大きな特色であり、これまでも大きな成果を上げている。この取り組みは、生徒が進路を考える上で貴重な行事であり、卒業生の献身的な協力で成り立っている。高校生の今だからこそ、さまざまな刺激を与え、同級生と切磋琢磨しながら総合的な力を高めるきっかけとしたい。</p>	<p>③ 授業改善（AL型授業展開等）による生徒の理解度向上</p>	<p>⑦ 指導法の研究を各教科で行い、深い学びの場の提供に努める。</p> <p>⑧ 研究授業の開催、相互授業参観、先進校視察や校内研修会を通して、授業改善及び指導力向上を図る。</p> <p>⑨ 生徒による授業満足度3.0以上を目指す。</p>	<p>A</p>
<p>生徒の心身のケアの体制を整えること、先生方の働き方に十分配慮をすることは、本校がこれからも輝き続けるために必要不可欠なことである。</p> <p>附属中学校とさまざまな分野で連携し、お互いの良さを学校や地域の活力づくりに大いに生かしたい。</p>	<p>④ 豊かな人間性の涵養による心理的安心の向上</p>	<p>⑩ 基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、部活動や委員会活動への積極的な参加を促す。</p> <p>⑪ いじめを許さない心や、他者を思いやる心の育成により、豊かな人間関係づくりを図る。</p> <p>⑫ 個別面談や教育相談を充実させ、生徒の悩みや問題の解決に向け支援する。</p>	<p>A</p>
<p>⑤ 探究活動・他校交流・大会参加等を通じて自己肯定感の向上</p>	<p>⑤ 探究活動・他校交流・大会参加等を通じて自己肯定感の向上</p>	<p>⑬ 探究活動を強く推進し、課題発見能力、課題解決能力の育成を図る。</p> <p>⑭ 自ら調べ、考え、発表する 姿勢を育て、主体的、対話的な深い学びにつなげる。</p> <p>⑮ 世界に通用する人材育成ができるよう、コミュニケーション能力、英語による発信力強化を図る。</p> <p>⑯ 国内外の大会、模擬国連などに積極的に参加し、グローバルな視野の育成を図る。</p> <p>⑰ 国内外の有識者による講演会、様々な背景を持つ生徒との交流などを積極的に行い、生徒の自信育成につなげる。</p>	<p>A</p>
<p>⑥ 学校情報の積極的発信と保護者・同窓生・地域との連携</p>	<p>⑥ 学校情報の積極的発信と保護者・同窓生・地域との連携</p>	<p>⑱ 学校の情報を積極的に発信するために学校ホームページや学校通信等を充実させ、本校の魅力を伝える機会を増やす。</p> <p>⑲ 地域とのコミュニケーションやふれあいの機会を大切にし、小中学校や近隣の方との交流を図る。</p>	<p>A</p>
<p>⑦ 中学生と高校生の積極的交流の推進</p>	<p>⑦ 中学生と高校生の積極的交流の推進</p>	<p>⑳ 授業・部活動・探究学習などの内容を段階的に身に付けられるように、効率的な連携を工夫する。</p>	<p>A</p>

別紙様式 2 (高)

	推進する。	クラウドでデータを共同管理し、職員間の共通理解や連絡事項を共有する。 ⑳㉓	A		
	働き方改革の推進	土曜講座や課外授業等の実施方法について、生徒の学びの質を落とさずに教職員の WLB を改善する手立てを検討する。 ㉔㉕	B		
渉外部	家庭、地域社会と学校の連携を深め、協力体制を確立する。	各学年後援会と学年との協力体制を強化し、充実した高校生を支える。 ㉑	A	A	・HP に掲載できるようにする。(機械の不具合で現在紙掲示での案内) ・早めに動き出す。
	奨学金制度の活用	PTA 行事への参加を呼びかけ、PTA 行事を活性化する。 ㉑	B		
生徒指導部	自ら考え、自ら動く姿勢を育成する。	校則の在り方や SNS の適切な活用法などについて生徒自身で考え、基本的な生活習慣を自律的に確立させると共に、いじめのない健全な学校生活を送ることができるよう支援する。 ㉒㉓	A	A	・生徒自身による自己管理・自治の意識を高める ・ヘルメットの着用率の向上 ・情報・論点の共有 ・教員と生徒の更なる連携 ・HR 担任との情報共有 ・年度を跨ぎ継続的に行う ・交通事故ゼロを目指す ・行事の在り方を再点検する
		交通ルールを遵守し、適切な交通マナーを実践できるよう指導すると共に、保護者や地域の方とも連携し、適宜見守り活動を行い、交通事故のない安全通学環境を整える。 ㉑	A		
	生徒の実態をよく把握し、生徒の自発的な活動を支援する。	学年・部活動・委員会・分掌間の連携を密にし、生徒の実態把握に努める。 ㉔㉕	A		
		生徒の発想や創意を活かすべく、学校行事運営や部活動を支援する。 ㉒㉓	A		
		キャリアパスポートの作成及び積極的な活用を行う。 ㉔	B		
	附属中学校と連携した教育活動の充実を図る。	円滑な課外活動が行えるよう、行事及び部活動に関する諸規定を見直す。 ㉒	B		
		中・高職員が連携して、登下校時の交通指導を行う。 ㉑	A		
	中・高が一体となった行事運営や生徒会活動が行えるよう支援する。 ㉑	B			
教育相談室	教育相談体制を確立する。	教育相談室の広報に努めるとともに、生徒や保護者が相談しやすい環境や体制を整える。 ㉑㉒	A	A	・SC の先生が SSW も兼ねており、SSW 枠として相談時間を 30 時間増やし多くの生徒を継続的に支援することができた。次年度も県に要請していきたい。
		各学年や各校務分掌、SC、SSW と連携し、生徒の悩みや問題の解決に向け支援する。 ㉓㉔㉕	A		
保健厚生部	安全で衛生的な生活環境を整備する。	清掃計画を作成し、生活環境が衛生的に保たれるよう分担区清掃を責任をもって実施する。 ㉓㉔	A	A	・各清掃分担区域の道具の整備に努める。 ・旧本館避難訓練実施方法を再検討し、母校の歴史に関心を持てるようにする。 ・性教育講演会の内容の充実を図る。
		校内の環境を安全・清潔に保つために定期的に安全点検を行い安心して生活できる環境を整える。 ㉓㉔	A		
		避難訓練を実施し、防災力の向上に努める。 ㉒	A		
	生徒の健康管理を支援する。	検診機関等が行う活動の準備・実施・事後措置に対し、協力・指導する。 ㉓㉔	A		
自他の生命尊重を基盤とした健全な倫理観を育み、将来の実りある自己実現に向け、性教育に関する保健指導を実施する。 ㉑㉒		A			
	学習指導を支援する。	効果的な個別指導を行うため、学年と共同で生徒の家庭学習実態を把握し担任を支援する。	B	A	・予備校の教員研修や入試

別紙様式 2 (高)

進路指導部			⑤⑥⑦			検討会に積極的に参加するように呼びかけていく	
		生徒の進路希望に即した授業や考査のレベルを維持するため、教科担当者が外部の研究会に積極的に参加するように促す。また教科内の作問などの検討を促す。		A			
	生徒が志高く、自らの進路希望を実現できるようにする。	キャリアパスポートの積極的な活用のために、将来の生き方や生活、進路や職業について考える学年行事の支援を行う。またHPで講演会等の様子を報告していく。		⑦⑳	A		・高い進路希望の実現を目指す生徒に対し、学年団や教科に質の高い情報提供と資料の補充を行う。
		生徒が自分の将来をデザインするための資料や図書の実践に努める。		①②③④	B		
		進路情報交換会を開き、指導法のヒントや課題の発見、およびその解決に努め、教職員集団として共通理解を持った進路指導ができるようにする。そのため、学年との連携を密にする。		①②④	A		
適切な進路情報の提供に努め、生徒が自らの将来をデザインできるようにする。	生徒が志望校を考える資料として、進学要覧・合格体験記を作成する。進学要覧は担任が生徒面談の際に活用し、合格体験記は生徒に配布する。		①⑥⑦	A		・2025年度入試に対する情報を整理し、学年と共有していく。	
	学年後援会総会、保護者面談の際に、学年に応じた適切な進路情報を提供する。		①②④	A			
	必要に応じて外部からの資料(大学の難易度・入試科目・受験にかかる費用等)を配付し、生徒と保護者が進路について共通の認識を持てるように支援する。		①③	A			
図書視聴覚部	授業の展開に対応した資料を充実させる。	各教科を対象に購入希望図書の調査をし、蔵書の充実を図る。	⑤⑥	A	A	・図書館の再開に向けて、今年度の経験を活かしたい。また、英語の図書購入など、今年度の計画を継続したい。視聴覚については、活性化してきた放送委員会をさらに充実させたい。	
		蔵書の効率的利用のため、コンピュータによる蔵書管理のあり方を見直していく。	⑥㉓	A			
	読書・作品鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	生徒の教養や人間性を高めるにふさわしい資料を精選し、継続的に収集してゆく。	③⑭	A			
		別館の開設や情報発信の工夫により、休館中も生徒の読書意欲を維持する。	③⑥⑭	B			
		生徒の読書生活を高めるための企画等を工夫する。	⑥⑭	B			
	授業及び自主学習の場として、利便性・快適性を高める。	図書館・視聴覚室の美化に努め、利用マナーの遵守について指導する。	⑥⑩	B			
		課外授業及び視聴覚教材を用いた授業の場として視聴覚室を開放する。	⑤⑥	A			
		別館の開設・運営を通して、生徒の自主学習を支援する場を保持する。	⑤⑥	A			
	附属中との連携を図る。	中高のバランスに配慮した選書を行う。	⑳㉑	A			
情報発信や図書の配置・企画等において、中高の連携を強化する。		⑳㉑	B				
ICT活用推進室	情報教育の環境を整備し、授業でのICT活用を進める。	事務室・教科・学年と連携し、ICT環境の整備に取り組む。	㉒	A	A	・反転授業的な使用もできると良い。	
		全学年での一人一台端末を使った授業の開始に合わせ、ICT活用を更に推進し、生徒の学習理解や学習法の改善を図る。	⑤⑥⑦⑧⑨㉒㉓	A			
	情報モラルに関する意識を高める	講演会などを通して、情報モラル教育を推進し、情報機器やSNS等の適切な使用についての生徒の意識向上を図る。	⑩⑪⑫	A		・1学年以外でも、講演会などの機会が取れると良い。	
	情報セキュリティに関する意識を高める。	情報セキュリティやウイルス対策等に対する教職員や生徒の意識向上を図る。突発的に起きるトラブル等に対しても対応出来るような用意しておく。	㉔	A			
業務の軽減を進める。	ワークフローの導入に合わせ、デジタル化を進め、業務の軽減を進める。	㉔㉕	B	・ワークフローの活用頻度			

別紙様式2 (高)

						が少ない。
探究学習推進室	課題探究活動を推進する。	課題探究活動を行うにあたり、大学教員の講義、留学生ワークショップ、海外大学との連携、県内外の他校との交流等を通じて、生徒の興味・探究心を喚起し自ら考えさせる態度を育成する。⑬⑭	A	A	・SDG's 学習を通して学んだ問題解決手法を、身近な問題の解決に反映させる探究活動をさらに推進する。 ・外部の発表会等に積極的に参加することを通して、探究学習を深化させる。	
	人的ネットワークの構築を推進する。	起業教育プログラム、海外高校との交流、海外フィールドワーク等を通じて、世界に目を向け、将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築させる態度を育成する。⑯⑰	A	A		
	幅広い視野を養う活動を推進する。	文化講演会、企業・研究所訪問、OBOG ガイダンス、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野を持った生徒を育成する。⑮⑯⑰	A	A		
	グローバル人材の育成を推進する。	学校行事や各種委員会活動等を通じ、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながらグローバル社会に貢献することができる生徒を育成する。⑭⑯⑰	B	B		
旧本館学習館統括室	自習場所として活用する。	進路指導部、各学年、特に第3学年と連携し、自習の場所として相応しい環境を整える。⑥	A	A	・旧本館・学習館が学習活動や学校行事等に安全快適に利用できるよう、より一層環境を整える。 ・コロナ禍が過ぎ、旧本館については、見学・撮影等の依頼が急増する可能性が高いので、活用委員会との連携を今まで以上に密にする。 ・休日の管理を業者に依頼した学習館については、事務室との連携を密にする。	
	各種行事に活用する。	学校・学年行事、研修会や会議等による使用予定を把握調整し、学習館の利用を効率的に行う。⑥	A	A		
	旧本館の活用を図る。	旧本館活用委員会と連携し、学習・特別活動や学校行事等の利用について検討し環境を整える。⑥⑩	A	A		
		学校休業日における地域社会との交流等のための利用について、旧本館活用委員会と検討する。⑬⑱	B	B		
第1学年	基本的な生活習慣と授業中心の学習スタイルを確立する。 自立、自走による自己実現を可能にする幅広い知識と教養を獲得する。 探究型学習を習慣化する。	挨拶、容儀、時間管理など日々の生活の中で、当たり前のことを高いレベルで行う、自立した、自らを律して、行動する力を養う。①⑩	A	A	・基本的な生活習慣の確立と徹底。 ・多様な経験と成長 ・自立した学習に立脚した自調自考の実践 ・進路意識の醸成 ・他者需要と視野拡張	
		授業を中心として、全ての教科・科目において生徒を主体的に参加させる授業を展開する。自ら取り組み考える姿勢を培うとともに、知見と視野を広げ、幅広く教養を身につけ、「志」を実践する①②③⑬	A	A		
		自ら考え、試行錯誤しながら問題を解決する習慣を獲得し、質の高い自学を促す。⑤⑥⑬⑭	B	B		
	高い目標を設定し、自立し自律する姿勢を涵養する。 社会に貢献する人材としての基盤を育成する。	企業訪問やOB・OG ガイダンスなどを通じ、広く社会に目を向け、将来の目標を可能な限り高く設定ができるよう意識を喚起するとともに、自身の知識や経験を社会に還元する意識を醸成しながら、自立し自走して自分の進路を切り開く力を身につける。①②⑪⑫	B	B		
ホームルーム活動や個別面談を通じて、自己認識および他者との相互交流をとおした視野の拡張		A	A			

別紙様式2 (高)

		と、社会のリーダーとしての素養の育成を目指す。 ①②③⑩⑪			
	すべての学校での活動に積極的に参加し、コミュニケーション能力と多様性の受容および対応力を育成する。	委員会や部・同好会の活動に積極的に参加させ、多様性を受容し、思いやりの心を育み、集団内での強いリーダーシップを育成する。 ①③⑩⑪	A		
		生徒相互の教え合いを活発化させ、知の伝達のネットワーク化を目指す。特に、成績上位者には他者に教える意義をしっかりと伝え、情報発信者として機能させるとともに指導的な立場を経験することによる成長を期待する。 ③⑤⑥⑦⑫⑬⑭	A		
		探究学習を通じ、自ら考え、課題を設定し、問題解決を図ることによる自立と、その過程でのコミュニケーション能力の向上、言語化、プレゼンテーション能力の育成を図る。 ①②③⑬⑭	A		
第2学年	自立探求型学習の深化を図り、高い目標へ継続的に取り組む。	学年行事を通して、自分の進路適性を見つめ、高い目標設定ができるよう働きかける。 ③⑩⑪	A	A	・3年前半において部活動や委員会活動の繁忙期においても学習を両立させる意識・姿勢、ならびに引退後に受験勉強にスムーズに切り替えられる習慣・学力を身に付ける。 ・3年後半において高い目標に向けて挑戦する精神、諦めない心の育成とともに心と体の健康を維持するスキルを身に付ける。
		授業中心主義、多科目主義を堅持し、平日3時間休日5時間以上の家庭学習を継続させる。 ①②⑤⑥	B		
		学習活動や行事において、生徒間のネットワークの活用を図る。 ③⑤⑩	A		
	諸行事や課外活動に積極的に参加し、人間性とリーダーとしての資質を育む。	部活動・各種委員会活動・三大行事に全力で取り組みませ、リーダーシップを育成する。 ③⑪⑱	A		
		自ら考え、自ら行動を起こす自立した生徒を育てる。 ②⑥⑬	B		
		他者・集団の利益を考えさせ、生徒の責任感や客観性を育成する。 ③⑭	A		
	多様な価値観を積極的に取り入れ、自己の成長へとつなげる。	別クラス・団体に所属する生徒間の繋がりを作り、生徒間の交流の活性化を図る。 ③⑩⑪	A		
		担任面談や学年担当者との関わりを通して、目標への挑戦を啓発する。 ②③⑩	A		
		スマホやSNSに依存しない繋がりを促し、コミュニケーション能力を育てる。 ②③⑪⑫⑮	B		
第3学年	高い目標を掲げ、その実現に向けて落ち着いた日常生活を送ると共に個が伸びる集団づくりを目指す。	面談を通して、自分の適性を見つめ、目標とする進路実現のために努力を継続する態度と意欲を涵養する。 ②⑥⑩⑫	A	A	・最終学年につき特になし
		集団生活での礼儀と社会的なモラルを意識させ、自らを律する能力を育てる。自分の資質や能力を社会に貢献する方法を探り、共同体における存在意義を感がさせる。 ③④⑥⑩⑱	A		
	部活動や委員会活動に主体的に取り組むと共に、学習との両立、そして受験勉強への切り替えを円滑にする。	部活動、一高祭といった学校行事に全力で取り組みませ、一つのことを成し遂げたという達成感をもって人間の成長へと結びつける。 ⑪⑳	A		
		転換期に進学講演会、課外（東大研、医学研）を実施し、高い志をもって取り組む生徒を育てる。 ①③⑥⑬⑭	A		
	授業第一主義を貫き、目標とする進路実現ができるように支援する。	「授業は地元難関大レベル、課外は最難関大レベル」を徹底し、学校内の指導だけでも大学受験が完結できる学習環境を提供する。 ⑤⑦⑧⑨⑲⑳㉑㉒	A		
		始業前や放課後の学習環境を整え、教室、学習館を学習の中心の場とするよう啓発する。 ⑤⑥⑦	A		
		部活動や学校行事を通して	授業、課外を通して、互いに教えあう場が発生する学習指導を行う。 ⑤⑥⑦⑧⑨		

別紙様式2 (高)

	育まれた友人関係を礎に、互いに教え、啓発し合う関係に発展させ、仲間と共に進路実現を目指す姿勢を育む。	課外（東大研、医学研、各種研究会）を通して、クラスの枠を越えた生徒交流を図り、互いに啓発しあう関係を育む。特に、志望校を同じくする生徒同士の集団化を図り、過去問を中心に、互いの長所短所を補完し合う主体的で対話的な学習活動を授業外で築かせる。 ①③⑥	A		
国語	基礎学力の確かな定着を図る。	授業計画を生徒と教員で共有し、主体的な予習・復習の習慣をつける。 ⑤⑥⑨	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の授業参観や問題研究などの実施と、授業改善およびさらなる授業力向上 ・新テスト初年度。対応可能な国語力の育成と指導準備 ・内申生と高入生の融合と実力伸張のための方策確立。 ・生徒ひとり一人の興味関心の高揚と学力伸張のために、ICT機器等の積極的な有効活用。
		小テストへの取り組み等を通して言葉の特徴やきまり及び語彙への関心を高める。 ⑤⑥	A		
	探究型の学習スタイルを目指し、自ら学ぶ力の育成を図る。	多様なテキストに触れ、情報の取り扱いに関する知識及び技能を高める。 ⑤⑥⑬⑭	A		
		幅広く古典に親しみ、伝統的な言語文化に対する理解を深め、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持つ。 ⑤⑥⑬⑭	A		
		読書および教科横断的な協同学習や表現活動を授業に取り入れることで、言語運用能力を総合的に伸ばす。 ⑦⑬⑭	B		
	授業デザイン・評価・指導方法を共有する。	生徒のニーズに応える特別講座および学力不振の生徒に対する補講等を実施し、幅広い学力層に対応した指導を行い、生徒ひとり一人の学力伸張を支援する。 ⑦⑨	A		
		中学校との系統性を考慮したうえで、考査や模擬試験等の分析を行い、分析結果をもとに授業デザインおよび指導法を改善、共有する。 ⑦⑧⑨⑲⑳	B		
单元ごとに授業内容を共有と、考査問題の協議、検討を行い、生徒の学力伸張と的確な学力評価を実践する。 ⑧⑨		A			
	ICT機器を活用し、学習者ひとり一人の学びを深める。 ⑤⑥㉒㉓	A			
地歴	世界史の学習を通して、国際社会における日本人のあり方を学び、社会に貢献できる生徒の育成を図る。	世界史の通史だけでなく、テーマ史的な観点からも歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟なとらえ方を身に付けさせる。 ⑤⑥⑭	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の動向を踏まえながら、日本と世界についての興味・関心を高め、理解を深めさせるような授業を心がける。 ・思考力、判断力、表現力の涵養を図るため、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を行う。 ・史料・資料を活用する能力の養成を図る。 ・新教育課程に応じた指導法の研究を深める。
		世界各地の文化とその成り立ちを学ぶことにより、我々と異なる文化や考え方を理解・尊重する態度を育成する。 ③⑤⑥	A		
		世界史の基礎的な知識を身に付け、それをもとに自ら考える力を育成し、表現する力を養成する。 ⑤⑬⑭	A		
	我が国の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察させるとともに歴史を追究する資質を養い、歴史的思考力を培う。	各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点で考察させる。 ⑤⑥⑨⑭	A		
		地域社会の歴史と文化を扱うことにより、郷土に対する関心を高め、愛する心を育てる。 ③⑤⑬⑭	A		
		基礎的な知識や史料を解読する力をもとに、論述することを通じて、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。 ⑤⑥⑭	A		
	現代世界で発生する種々の事象に対し、自ら考える姿勢	系統的な学習を通して基本的な知識の定着を図り、地誌的な学習を通して興味・関心を持って具体的に現代世界を考察する態度を養う。 ①⑤⑥	A		

別紙様式2 (高)

	を養うとともに地理的な見方・考え方の育成を図る。	授業進度の適切な時期を考慮して、調査や作業学習を体験することで地理的な技能を養う。 ⑤⑬⑭	B		
		3年次では大学入試に対応した論理的な思考力や表現力を育成する。 ⑤⑥⑬⑭	A		
	授業デザイン・評価・指導方法を改善する。	中学校との系統性を考慮したうえで、考査や模擬試験等の分析結果を活かして授業をデザインする。 ⑦⑧⑨⑳	A		
		ICT機器を活用し、学習者の学びを深める。 ㉒㉓	A		
公民	人間と社会の在り方についての見方・考え方の理解を深め、現代の諸課題を追究・解決する姿勢と能力を養う。	公共で必要とされる基礎的知識を身に付け、それをもとに諸問題に対して自ら考える態度を育成する。 ⑤⑥⑭	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・時事的な話題を常に取りあげ、興味・関心を高める工夫を心がける。 ・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を行う。 ・新教育課程に応じた指導法の研究を深める。
		公共的な空間と人間的な関わり、個人の尊厳と自主・自立、人間と社会の多様性と共通性、人間としてのありかた・生き方についての理解と思索を深めさせる。 ③⑭	A		
	政治・経済・国際関係などを客観的に理解し、関心を持って考察する態度を育成する。	民主主義の本質に関する理解を深め、現代社会における政治・経済・国際関係などについて理解させ、基礎的な知識を身に付けさせるとともに、それらについて主体的にとらえ、考えさせる。 ⑤⑥⑭	A		
	授業デザイン・評価・指導方法を改善する。	中学校との系統性を考慮したうえで、考査や模擬試験等の分析結果を活かして授業をデザインする。 ⑦⑧⑨⑳	B		
ICT機器を活用し、学習者の学びを深める。 ㉒㉓		A			
数学	生徒の発達段階に応じた質の高い授業を展開するよう授業改善する。	綿密な授業計画表を作成し、進度計画表を生徒に配布することで生徒の学習計画を促すとともに、それぞれの学年の方策に従って基礎学力の定着を図る。 ⑤⑥⑦	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新課程における学習進度および学習順の検討，検証が必要。 ・単位制以降を見据えた，指導科目の設定。 ・内進生と高入生の進度，授業展開の仕方。 ・学年担当者減少に伴う，考査問題の質の維持。
		授業重視を徹底させる。日常の自己学習を徹底させる。 ⑤⑥	A		
		授業中心の学習計画を立てさせ、「予習→授業→復習」の学習習慣を確立させる。 ⑤⑥⑦	A		
		科目担当者の連携を密にし、授業の進度や定着度合いの確認・分析を行い、学習指導に生かす。⑤⑥⑦⑧⑨	A		
		基本事項の理解を徹底させると共に、試験前等の問題演習を十分に行う。 ⑤⑥	B		
		授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。⑤⑥⑦	A		
		3学年の生徒には、基本事項を整理し、発展的な応用力の養成と定着に努め、難関大学に合格できるための思考力を養う。 ⑥⑪	A		
進学目標別の対策を研究するためのガイダンスや課外を実施する。 ⑥⑪	A				
理科	自然に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。	授業展開の中で、生徒の興味・探究心を喚起する実験・観察教材の研究と工夫に努め、考察への展開を工夫改善すると共に発展的な内容や話題について提供する。 ⑤⑥⑦⑧	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・観察実験を通して、「思考・判断・表現」の向上に向けた教科指導の一層の充実を図る。
		単元毎の観察・実験を行い、観察・実験に積極的に取り組ませ、現象を見る目や探究心を養う。また、その内容についてのレポートの作成や発表を通して、学力の定着を図るとともに科学的な思考力を養う。外部講師による「科学実験講座」を実施し、発展的内容に触れさせることで科学的探	B		

別紙様式2 (高)

	生涯にわたり芸術を愛好する心情と豊かな情操を育む。	生徒自らが工夫した表現活動や相互鑑賞などにより豊かな心情を育て、芸術の諸能力の向上を図る。 ⑤⑥⑨⑩	A		
		相互鑑賞等をとおして、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己表現の意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力やコミュニケーション能力を向上させる。 ④⑤⑥⑨⑩	A		
家庭	変化の大きい社会を生き抜くために必要な知識と技術を習得する授業を創意工夫する。	各分野の授業において、生涯を見通して生活を設計し、創造する力を引き出す授業や実習を研究し、発展的な知識・内容についても提供する。 ⑤⑥⑦⑧⑨⑫	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報についてはより新しいものを提供する。 ・体験活動を工夫していく。 ・より新しい情報の研究を進める。 ・多忙な生徒達に応じた時間の確保をする。
		授業において学習した知識や技術を活かし、家庭生活における課題を主体的に解決する態度や適切に判断し、創造・工夫する力を育成する。 ⑤⑥⑦⑧⑨	B		
	家庭や地域の生活課題を主体的に解決するために必要な知識と技術を習得し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	各分野の授業において、生涯を見通して生活を設計し、創造する力を引き出す授業や実習を研究し、発展的な知識・内容についても提供する。 ⑤⑥⑦⑧⑨⑫	B		
		技術の習得については、生徒一人一人の能力にあった個別指導を充実させる。 ⑥⑫⑬	B		
情報	課題設定や課題解決のための思考力を養う。	課題探究活動と連携し、情報技術の有用性を理解させながら、実際に課題設定と解決方法を探る活動を通し、必要とされる思考力を養う。 ⑤⑥⑭	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト対策 ・プログラミング指導の向上
		アルゴリズムを表現し、プログラミングの基礎を学習することを通して、論理的な思考力を育成する。 ⑤⑥	A		
	情報社会において適切に活用できるICT技術を養う。	ワープロ、表計算ソフト、パワーポイントを活用した課題研究と各種発表会を通して、情報の伝達力を育成する。 ⑤⑥	A		
		情報やメディアの特性を理解し、情報セキュリティや情報モラルの重要性をより実感出来るような題材を適宜選択し、生徒の素養を育成する。 ⑥⑦	A		
	情報技術を用いた効果的なコミュニケーション能力を養う。	オンラインでのプレゼンテーションや質疑応答を通して、効果的なコミュニケーションを図るための情報技術、情報デザインを実際に活用し、自らのコミュニケーション能力向上を目指す態度を養う。 ⑤⑭	A		
	積極的に授業改善を行う。	生徒のスキル向上を可能にする授業改善を行う。 ⑦⑧⑨	A		
英語	英語科全体の目標 分かりやすい授業へ授業改善し、実践的コミュニケーション能力を養う	教材研究を深めて、生徒の知的好奇心を刺激し、充実感のある、分かりやすい授業を展開する。 ⑤⑥⑧	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Formの活用、ロイノートを用いた授業づくりなど、さらなる授業ICT化の推進をはかる。 ・サイドリーダーの内容を吟味しアップデート化をはかる。 ・十分な休養を取り、心身に共に健康に留意する。
		英語を通し、将来国際社会で活躍する日本人として必要となる、国内外の文化・社会の諸側面についての理解を深められるように題材の扱い方を工夫する。 ⑤⑥	A		
		読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく伸長できるような授業を展開する。 ⑤⑥⑦⑧	A		
	第1学年の目標 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の確かな基礎力を養う。	授業を中心に予習復習の徹底を図り、自立した学習の援助をする。 ⑤⑥	A		
		語彙力を向上させるテストを学年を通して実施する。 ⑤⑥	A		
		英語に親しめるサイドリーダーを選択・活用して、読解力の基礎の育成を図る。 ⑤⑥⑦	A		
		辞書指導の充実等によって、自立した学習力の育成を図る。 ⑤⑥	B		
	第2学年の目標 第1学年で培った英語の	授業内にペアワークを頻繁に取り入れ、実践的コミュニケーション能力の向上を図る。 ⑤⑥	A		
		第1学年で培った生徒の英語力を踏まえ、個々の生徒の英語運用能力を伸ばす授業を展開する。 ⑥⑦⑧	A		
		表現力を高めるための文法・語法確認小テストを継続実施する。 ⑥	A		

別紙様式 2 (高)

基礎力をさらに伸長させ、確かな英語力を養う。	文法的に正確であり、論理的な英文が書ける力を養う授業を展開する。 ⑤	A		
	英語による自己表現を促すことで、世界的な視野を持つ人材の育成を図る。 ⑤⑥	A		
	知的好奇心を刺激するようなサイドリーダーを選択・活用して、読解力の向上を図る。 ⑤⑥⑦	A		
第3学年の目標	第1、2学年で培った英語力を踏まえ、ゆるぎない英語力を完成させる。 ⑤⑥⑦	A		
生徒の進路希望実現のために、難関大学入試に対応できる確かな実践力を養う。	大学入試問題を研究し、生徒の進路希望に即した考査を実施する。 ⑤⑥⑦⑧	A		
	国公立大学個別学力試験に対応できるような英文要約や英作文等の個別指導を充実させる。 ⑤⑦⑧	A		

※ 評価規準：A：目標が十分達成された B：ある程度の成果が見られた C：取り組んだ D：取り組んだが課題を残した E：取り組まなかった